

国語科『言語文化』シラバス

北海道常呂高等学校

学年	1	単位数	2	授業形態	一斉			
教科書 (出版社)	新 言語文化 改訂版 (三省堂)		副教材等 (出版社)	新言語文化 学習課題ノート(三省堂)				
学習目標	<p>○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。</p> <p>○言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。</p>							
学習方法	<p>○(知識等の)吸収→思考→表現のサイクルを毎時間、毎単元で意識する。</p> <p>○目の前の物事に興味を持ち、「なぜ?」と疑問を持つようにする。</p> <p>○授業時間毎・単元毎の目標を理解し、そこに到達するための見通しをもつ。</p> <p>○自分の理解度を客観的に評価し、予習や復習などを自主的に行う。</p>							
学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨					
	ア	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。					
	イ	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。					
ウ	主体的に学習に取り組む態度		上記ア、イの力を身に付けるにあたって、粘り強く取り組み、自らの学習を調整している。(全単元この趣旨に沿って評価するため、下記「評価規準」の記載は省略)					
評価方法		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
観点		実力考査	単元考査	小テスト	発表・発言	提出物の内容等	宿題の内容等	作品制作
ア	知識・技能	○	○	○	○	○	○	○
イ	思考・判断・表現	○	○		○	○	○	○
ウ	主体的に学習に取り組む態度				○	○	○	○

学習計画（「単元」末尾の括弧内は指導領域と予定授業時数）

学期	編・章	単元 【観点】	学習内容（教材）	評価の観点			評価規準	評価方法
				ア	イ	ウ		
前期中間	1 言語文化について考える	○「魔法を知る」に表れたものの見方・考え方を捉え、古文に親しもう【読む：古典（6）】 ○「ゴール」を読んで交流し、近現代の文学に親しもう【読む：近代以降（4）】	・文章に表れたものの見方・考え方を捉える（「魔法を知る」奈倉有里） ・古文に親しむ（宇治拾遺物語「児のそら寝」）	○	○	○	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	②～⑥
			・近現代の文学に親しむ（「ゴール」三崎亜記）	○	○	○	・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。	②～⑥
前期期末	1 言語文化について考える	○起承転結の構成をとらえて漢文の世界に親しもう【読む：古典（4）】	・漢文に親しむ（故事二編「借虎威」「蛇足」）	○	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。	①～⑥
			・文章の構成を捉える（宇治拾遺物語「絵仏師良秀」） ・登場人物の心情の変化とその契機を捉える（「羅生門」芥川龍之介）	○	○	○	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。	①～⑥

前期期末	夏を切り抜く(表現)	○素材のよさや味わいを生かして、短歌を作ろう【書く(5)】	・短歌に表す	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	④～⑦
	3 創造について考える(言語文化の継承と)	○和歌・短歌を通して、言語文化の継承と創造について考えよう【読む：古典(8)】	・物語における心情表現の特徴を捉える(「伊勢物語」)	○	○	・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	②～⑦
	5 としての韻文化について考える		・和歌・短歌に描かれた情景や心情を捉える(和歌十首、短歌七首)	○	○	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	
後期中間	3 創造について考える(言語文化の継承)	○言葉と文化の関係を捉えなおし、筆者が本文中で伝えたかったことを読み取ろう【読む：近代以降(5)】	・言葉と文化の関係を捉えなおす(「講談放浪記」神田伯山)	○	○	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	②～⑦
	2 構成や展開について考える	○文章の展開を理解し、漢文に表れた言語表現の多様さをとらえよう【読む：古典(6)】	・文章の展開を整理する(「十八史略 鶏口牛後、先従隗始」)	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	②～⑥
	冬を切り抜く(表現)	○表現効果の工夫をして俳句を書こう【書く(5)】	・俳句に表す	○	○	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	④～⑦
後期期末	4 人物像や心情について考える	○「平家物語」を読んで、人物像を批評しよう【読む：古典(7)】	・人物像を批評する(「平家物語 木曾の最期」)	○	○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	①～⑥
		○心情表現の多様さを捉え、作品の成立した背景を踏まえながら物語の役割を考えよう【読む：近代以降(5)】	・心情表現の多様さを捉える(「待ち伏せ」ティム・オブライエン/村上春樹(訳))	○	○	・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。	①～⑥
	6 認識の世界に対する	○「論語」を読んで自分に引き付けて考え、ものの見方や考え方を深めよう【読む：古典(7)】	・ものの見方・考え方を振り返る(論語八章)	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	③～⑦

指導領域毎の時数

指導領域	書くこと	読むこと		計
		古典	近代以降の文章	
授業時数の計	10時間	40時間	20時間	計70時間